



☀️	なし
----	----

☀️☁️	<b>酒類製造</b>	値上げ等による反動は一部を除き沈静化。今月もまだ値上げの時期による、メーカー毎の出荷量格差はみられるが、市場の状況については、観光業界の活発化に伴い徐々に回復の兆し。
	<b>青果卸売</b>	売上は徐々に増加している。天候にも恵まれ、相場も安定している。新型コロナウイルスの影響に関しては、一般販売は安定してきたが、業務関係はまだ回復していない。
	<b>電気機械器具小売</b>	全商品平均で101.3%。省エネタイプのエアコン前年比で103.8%。テレビは前年比96%。リフォームが前年比108%で好調。
	<b>商店街(四万十市)</b>	県外客が増えている。春の菜の花まつりなど観光開きの行事が今年ではできたのでこれからのイベント開催などにも期待が持てる。
	<b>クリーニング</b>	コロナ5類への移行決定などの刺激により回復傾向にある。価格転嫁も一段と進み、売上、収益は増加したが、相次ぐエネルギー価格、資材価格の上昇に加えて、物価上昇による節約意識も高まって回復のテンポは遅い。新型コロナウイルスの影響で宴会需要減少やリモートワーク、葬儀家族葬化による礼服需要の減少がみられ、今後、行動変容は定着すると思われる。

☁️	<b>食品団地</b>	2月度商況はやや低調気味であった。県外向け出荷・商談は活発。エネルギー価格、原材料・諸物価の上昇による価格設定に困難している企業から原価試算の修正頻度が高すぎて、値上げ対応に遅れが出てしまう声が多く見受けられる。
	<b>テントシート</b>	コロナ禍ではあるが、各種イベント開催がされるようになり、イベント関連主力の事業所も活気が戻りつつある。帆布製品の値上げが、やっと販売価格への転嫁が出来そうな感がある中で、電気料金を始め諸材料費の相次ぐ高騰で大変な状況。
	<b>木製品素材生産</b>	丸太価格は先月からは横ばい状態となっている。長級(3m材・4m材)によって需要に差があり、先月同様4m材が欲しい状況ではあるがなかなか難しい状況。原木入荷量も先月同様で横ばい状態。しかし、年度末を迎え今後、減少見込み。
	<b>製材</b>	目先の受注は減少するとの見方が多い。
	<b>製紙(家庭紙)</b>	量販店の家庭紙価格が上昇しており、中小企業も価格転嫁し易い環境となる。人流も活発となり、コロナ禍以前の状況に戻る事を期待する。
	<b>製紙(手すき和紙)</b>	状況は変わらず、価格転嫁は少しずつ行っているが、価格高騰で購買意欲が下がっているように思える。原材料高騰・円安といつまで続くのか見当もつかず売上の伸びが鈍い状態が続いており、まだまだ大変な状況である。
	<b>刃物製造</b>	今月前半も出荷額が低迷していたが、後半少し持ち直し昨年とほぼ同じ売上となった。また、資材関係の値上もいくつかあり、利益率の低下が心配される。
	<b>船舶製造</b>	生産状況は引き続き高水準。
	<b>珊瑚装飾品製造</b>	2月の取引額は前年同月比146%となったが、コロナ禍以前の水準(2019年2月)と比較すると33%となり、回復には至っていない。

☁️	<b>卸団地</b>	・コロナ感染者数の減少により、外食業は前月より動いている。ただ、原価UPによる利益減に苦しむ店が多い。景気悪化が進む。原材料値上げ、ガソリン・電気代値上げが経営を圧迫する。
	<b>各種小売(土佐市)</b>	新型コロナウイルスが少し落ち着いてきたが、客足は伸びず、厳しい状況が続いている。
	<b>中古自動車小売</b>	中古車フェアを2月上旬開催し、前年同月より販売台数が伸びてはいるものの、軽自動車の需要が多く客単価の伸びはやや鈍い傾向だが、来場者数は前年と比べ3割増と増加傾向。
	<b>商店街(高知市)</b>	中央公園地下駐車場 売上前年比:117.5%、利用台数前年比:114.0%。春の恒例イベント「土佐のおきゃく」も始まり、来街者もだいぶ増えたように思われる。3月は久しぶりに外国客船が7隻入港の予定となっている。
	<b>旅行業</b>	組合クーポン前年同月対比149%、全旅クーポン合わせた前年対比360%、令和4年度総売上前年対比260%。公的支援、雇用調整助成金制度が終了する令和5年度が旅行業界の正念場である。
	<b>IT事業</b>	インボイスへの対応、周知が遅れている。インボイス対応補助金もあるが、導入に気後れしている零細が多く、全体的に動きが遅く感じる。商機もあるが、ソフトの変更などについての不安や煩わしさを感じており、受注にしっかりとつながっていない。

☁️☔️	<b>印刷</b>	売上については増、設備操業度も上昇。県内需要はイベント回復基調又選挙特需も有り徐々に好調感。県外需要は業種により好不調が見られるが、イベント関連は回復傾向。但し材料費及び電気料金等の高騰もあり収益状況の悪化に不安感が漂う。
	<b>生コンクリート製造</b>	2月単月の出荷数量は、対前年比91.2%、4月からの累計は82.0%で単月・累計とも1月に続き若干増加傾向にある。地域的には高知協組や高幡地区を除き全県下で減少傾向が続いている。
	<b>コンクリート製品</b>	年度末の出荷量の増加は期待できず、令和5年2月分は、昨年度同月より減少した。
	<b>機械団地</b>	建設関連では、年度末を控え完成工事高が順調に増加している。電力料金の急激な高騰により収益悪化が続いている事業所がある。新型コロナウイルスの影響はほぼ収まっているが、まだ一部の電気機械材で入荷の目途が立たないものがある。
	<b>生鮮魚介卸売</b>	カツオの入荷量が少なかった。色々値上げて大変。初カツオの入荷に期待している。
	<b>ガソリンスタンド</b>	新型コロナウイルスについては落ち着きを見せ、海外からの観光客も戻りつつあるが、原油価格はやはりロシアのウクライナ侵攻が終息を迎えないと安定しない。販売数量も減る一方。そんな中、他県ではガソリンの乱売を始めて少しでも多く売ろうとしているが、利益のない販売は商売ではない。これからますます販売量が減って行くことが想定されるガソリン業界の苦悩と、ガソリンが高いのではなく現在1リットルには72円を超す高い税金がかかっていることを理解していただきたいと思う。
	<b>商店街(安芸市)</b>	5月からコロナがインフルエンザと同等の扱いになる事で、集客が増える事を期待。また、マスクの着用などの規制が緩和されてきているので、イベント実施における感染症対策もどこまで緩和されるか動向を見ながら、イベントの実施に取り組みたい。
	<b>旅館・ホテル</b>	行政実施のキャンペーン等の影響を受け、宿泊は回復するも、終了後3月以降の先行きが見えず。光熱費・原材料費の高騰は止まることを知らず、販売単価を上げざるを得ない状況。
	<b>飲食店</b>	前年同月比から売上は一割弱増えているが、光熱費や仕入価格が高騰しているため収益は悪化、波動的な原材料の値上げに価格転嫁が追い付いていない。コロナ禍以前の同月の売上と比較では8割程度と依然厳しい。業態により経営環境に大きな差があり収益にも反映されている。(県外客=多、県内客=少)。新型コロナウイルスの影響で集客減、売上の低下がみられ、今後は業界の規模が縮小すると思われる。
	<b>一般土木建築工事</b>	令和5年2月分の公共土木用生コン出荷量は、前月比107.0%、前年同月比91.2%。令和4年4月から令和5年2月累計においては前年累計対比82.0%。2月の工事請負金額は前年当月比で128.7%、前年対比累計金額では88.1%。令和5年2月末時点の前年対比累計請負金額は、国:96.4%、高知県:同累計75.1%、市町村:同累計85.6%となっている。生コン出荷量、工事請負金額共に累計では落ち込んでいるが、災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事は継続している。生コンクリート単価については、引き続き値上げ交渉を行うことと共販率上昇に向けた取り組みを当組合としてもできることを行っていく。共販率の引き上げに苦慮している。1月1日契約分以降の生コンクリート価格引き上げについては、高知市内は依然として難航予想。その他の地区については、引き上げに理解を得て概ね順調推移予想。
<b>電気工事</b>	組合員の施工する電力引込線工事は、前年比168.5%となった。高知中央地区、香長地区、中芸地区の伸びが大きい。	
<b>一般貨物自動車運送</b>	2月に入っても荷動きは鈍く、昨年と比べても組合実績は若干下回った。燃料価格は若干の値下げとはなったが、高値のまま3月の繁忙期を迎えることとなり、組合員企業は厳しい状態が続くと思われる。新型コロナウイルスの影響で荷動きが悪く売上が伸びない。荷動きが戻らなければ収益が落ち、経営を圧迫する。	

☔️	<b>建具</b>	仕事量が少ない。材料の値上げが止まらない。
	<b>タクシー</b>	実働1日1車当りの前年同月比営業収入:91.7%、輸送回数:85.8%、実働率は49.9%。いよいよ春の観光シーズンを迎え、新型コロナウイルス感染も落ち着きつつあるが、タクシー運転者の不足は続いており、利用者に対し満足してもらえないのが不安である。とうとう稼働率(実働率)が50%を切ってしまった。車があるが運転手が居ないため動かさない。